

# Kansai Economic Insight Monthly

2022/6/24

Vol.110 May/June

▼ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

▼レポート公開時期は毎月第4週を予定しています。

▼執筆者は、稲田義久(甲南大学名誉教授、APIR 研究統括兼数量経済分析センター長)、豊原法彦(関西学院大学教授)、郭秋薇(APIR 研究員)、野村亮輔(APIR 研究推進部員)、吉田茂一(APIR 研究推進部員)、今井功(総括調査役/研究員)、山守信博(調査役/研究員)です。

▼本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

## 目次

|                   |    |
|-------------------|----|
| 要旨                | 1  |
| 関西経済のトレンドとCI, CLI | 2  |
| 総括判断              | 3  |
| COVID-19 モニター     | 3  |
| 生産・労働関連           | 4  |
| 内需関連              | 7  |
| センチメント            | 10 |
| 外需関連              | 11 |
| 中国景気モニター          | 13 |
| 主要月次統計            | 18 |
| Release Calendar  | 19 |

## 要 旨

### 景気は足下、先行きともに改善を見込む：

#### 中国経済の減速リスクもサービス支出中心の回復に期待

- ✓ 関西の景気は**足下、先行きともに改善**を見込む。足下、行動制限がない大型連休(GW)で人流が回復し、センチメントは改善。先行きは、中国のゼロコロナ政策による経済減速と原材料高等は海外からのリスク要因だが、国内的にはサービス支出中心の回復が期待される。
- ✓ COVID-19の新規陽性者数はGW後減少傾向で推移してきた。しかし6月中旬以降、減少の推移に鈍化がみられる。
- ✓ 4月の鉱工業生産は2カ月ぶりの前月比上昇。生産用機械や輸送用機械などの増産が影響した。
- ✓ 4月は経済活動の正常化を受け、労働需給双方が拡大した。ただし、労働力人口の増加に比して、就業者数の回復が小幅にとどまったため、完全失業率は3カ月ぶりに前月から上昇。また、有効求人倍率は2カ月ぶりに改善した。
- ✓ 3月の関西2府4県の現金給与総額は、名目で13カ月連続の前年比増加し、3カ月連続でコロナ禍前の水準を超えた。一方実質では、消費者物価指数の上昇により、3カ月ぶりの減少となった。
- ✓ 4月の大型小売店販売額は7カ月連続の前年比増加となったが、全国に比して消費の回復は弱い。うち、スーパーは内食需要が鈍化し3カ月ぶりの減少。百貨店は前年の営業時間短縮や休業の反動で2カ月連続の増加となった。
- ✓ 4月の新設住宅着工戸数は2カ月ぶりの前月比減少。貸家は増加したが持家、分譲が減少に寄与。うちマンションは前月の反動で大幅減少した。
- ✓ 4月の建設工事出来高は2カ月連続の前年比増加。公共工事出来高は3カ月連続の増加となった。5月の公共工事請負金額も3カ月連続で増加しており、減少傾向が続く全国に比して好調が続いている。
- ✓ 5月の景気ウォッチャー現状判断DIは3カ月連続で前月比改善。行動制限のないGWによる人流の大幅増加で景況感は改善した。先行き判断DIも4カ月連続改善だが、中国のゼロコロナ政策による悪影響には注視が必要である。
- ✓ 5月の貿易収支は4カ月ぶりの赤字。燃料価格の高騰により輸入が過去最高額を更新したことによる。地域別にみれば、中国の物流停滞解消により対中輸入が増加したことで、対中貿易赤字は拡大した。
- ✓ 5月の関空への外国人入国者数は入国者数上限引き上げの影響もあり、2万7,161人と2カ月連続で2万人超の水準となった。
- ✓ 5月の中国経済は、上海市で経済活動が段階的に再開されたため、生産再開の動きが見られ、工業生産は前月からプラスに転じ、輸出も拡大した。一方、雇用には改善は見られず、内需が低迷している。6月にもゼロコロナ政策の影響が続くと見られるため、4-6月期の中国経済には下押し圧力となろう。

## 【関西経済のトレンド】

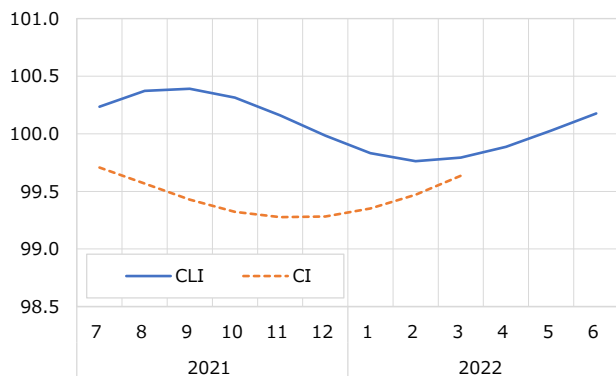
| 各項目   | 2021年 |    |    |    |    |     |     |     | 2022年 |    |    |    |    |
|-------|-------|----|----|----|----|-----|-----|-----|-------|----|----|----|----|
|       | 5月    | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月    | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 |
| 生産    | ↘     | ↗  | ↘  | ↘  | ↘  | ↘   | ↗   | →   | ↗     | ↗  | ↘  | ↗  |    |
| 雇用    | ↗     | ↗  | ↘  | ↘  | →  | →   | →   | →   | ↗     | ↗  | →  | ↗  |    |
| 消費    | →     | ↘  | ↗  | ↘  | ↘  | →   | ↗   | ↗   | ↗     | →  | ↗  | ↗  |    |
| 住宅    | →     | ↗  | ↗  | ↗  | ↗  | ↗   | ↘   | →   | →     | ↘  | ↗  | →  |    |
| 公共工事  | ↗     | ↗  | →  | ↗  | ↘  | ↘   | ↘   | ↘   | ↘     | ↘  | →  | ↗  | ↗  |
| 消費者心理 | ↗     | ↗  | →  | ↘  | ↗  | ↗   | ↗   | →   | ↘     | ↘  | ↗  | ↗  | ↗  |
| 貿易    | ↗     | ↗  | ↑  | →  | →  | ↗   | ↘   | ↘   | ↘     | ↘  | ↘  | ↘  | ↘  |
| 中国    | ↗     | ↗  | →  | ↘  | ↘  | ↘   | →   | →   | →     | →  | →  | ↘  | →  |

(※トレンドの判断基準)

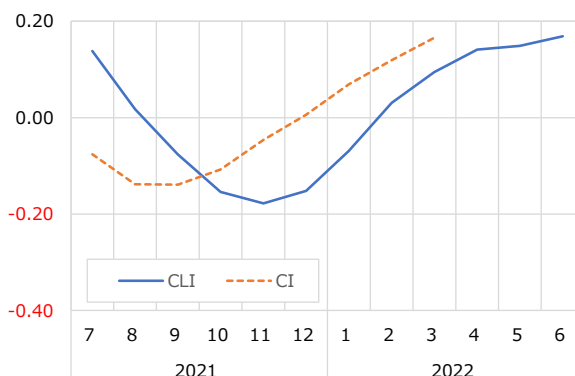
- ・ **生産**：近畿経済産業局『近畿地域拡大工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **雇用**：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・ **消費**：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **住宅**：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **公共工事**：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **センチメント**：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **貿易**：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。

## 【関西の景気動向指数(CI一致指数・CLI)の推移】

直近1年間のCI・CLIの推移(2021年7月～22年6月)



直近1年間のCI・CLIの前月差(2021年7月～22年6月)



(注) 指数は2013年1月～22年3月までのデータで計算されている。

## 【今月の総括判断】

関西の景気は、**足下、先行きとも改善**を見込む。

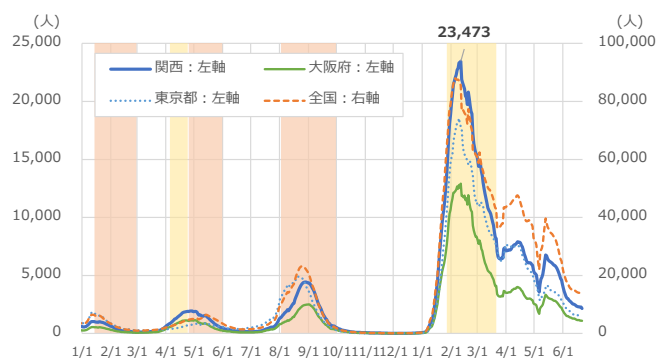
足下、感染状況が落ち着いていることから**雇用環境・消費**は緩やかに改善しているものの、回復力に力強さを欠く。**センチメント**は行動制限のない大型連休(GW)で人流回復の影響もあり現状判断は改善。**貿易収支**は原油高の影響もあり赤字に転じた。**中国経済**は、都市封鎖の一部解除もあり、やや持ち直しているが、依然ゼロコロナ政策による影響は強い。

先行きは中国経済の減速と原材料高が引き続きリスク要因だが、サービス業を中心に消費回復が期待される。

## 【COVID-19 モニター】

関西における COVID-19 の 1 日当たりの新規陽性者数(7 日間後方移動平均、最終更新日: 6 月 21 日)は、GW 後 5 月 13 日の 6,766 人をピークに減少へと転じた。その後順調に新規陽性者数の減少が続いた。しかし 6 月中旬に入りその減少は鈍化傾向にある。日によっては前日の陽性者数を上回る日が出てきている状況である。6 月 21 日現在の陽性者数は 2,154 人となっている。

全国と関西の新規陽性者数の推移(2021 年 1 月~22 年 6 月 21 日)



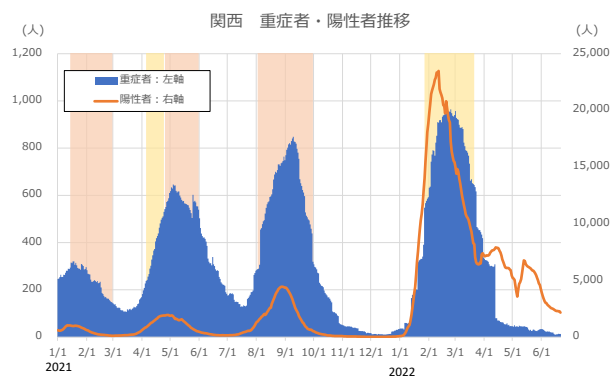
(注) 後方 7 日間移動平均。オレンジ色のシャドー部分は関西における緊急事態宣言、黄色はまん延防止等重点措置実施期間。

(出所) 厚生労働省発表資料等より作成

なお、第 5 波のピーク 4,437 人(2021 年 8 月 28 日)と比べても半数程度であり決して低い水準とは言えない。しかし重症者数および陽性者数を見ると第 5 波では最大重症者数は 848 人、最大陽性者数 4,437 人、第 6 波ではそれぞれ

964 人、23,473 人、6 月 21 日では 13 人、2,154 人となっており、重症化する割合がかなり低くなってきている。このためコロナに対する警戒度が下がってきていることがうかがえる。関西各府県別の動向をみても全国と同様の傾向で推移している。5 月 13 日から 15 日をピークに減少に転じ順調に減少していたが、6 月中旬になって減少数は鈍化している。6 月 21 日現在各府県の陽性者数は滋賀県 147 人、京都府 298 人、大阪府 1,100 人、兵庫県 439 人、奈良県 105 人、和歌山県 64 人となっている。

関西重症者数と新規陽性者数推移(2021 年 1 月~22 年 6 月 21 日)



(注) 後方 7 日間移動平均。オレンジ色のシャドー部分は関西における緊急事態宣言、黄色はまん延防止等重点措置実施期間。

(出所) 厚生労働省発表資料等より作成

行動制限が緩和され人流がもどrittつある状況においても陽性者数は GW 以降減少傾向で推移してきたものの、6 月中旬以降減少傾向が鈍化してきており、引き続き注意が必要である。諸外国がコロナに関する規制を撤廃している状況のなか、訪日外国人の規制緩和も進みつつある。今後の感染状況には留意する必要があるものの、規制緩和への流れが加速することが予想される。

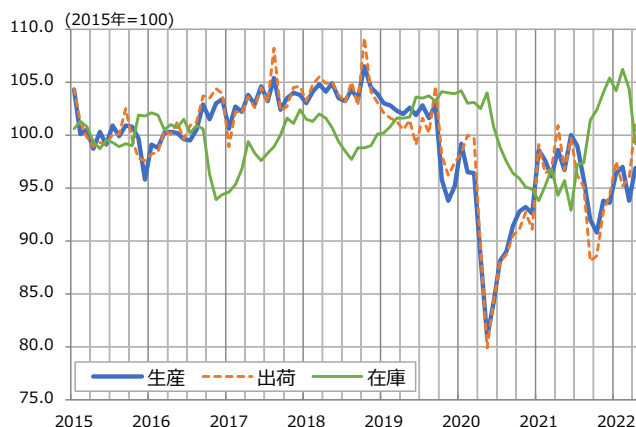
またコロナに関連して 5 月に「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(薬機法)」の改正が行われ、緊急時の医薬品の承認制度が整備され日本における緊急承認制度が創設された。今までは海外で既に流通された医薬品での特例承認での早期承認であったが、今後は日本で開発された医薬品の早期承認が可能になった。

## 【生産・労働関連】

### (1) 生産動向

関西4月の鉱工業生産動向(速報値: 季節調整済、2015年=100)を見ると、生産は96.9であった。前月減産した電気・情報通信機械や生産用機械の増産も影響し、前月比+3.3%と2カ月ぶりに上昇した(前月: 同-3.3%)。4月は1-3月平均比+1.2%となった(1-3月期: 前期比+3.2%)。近畿経済産業局は基調判断を「生産は持ち直しの動きに一服感」と前月から据え置いた。

関西の鉱工業生産動向の推移 (2015年1月~22年4月)



(注) 福井県を含む。

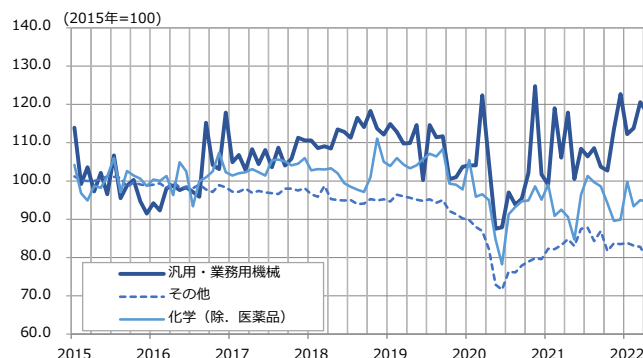
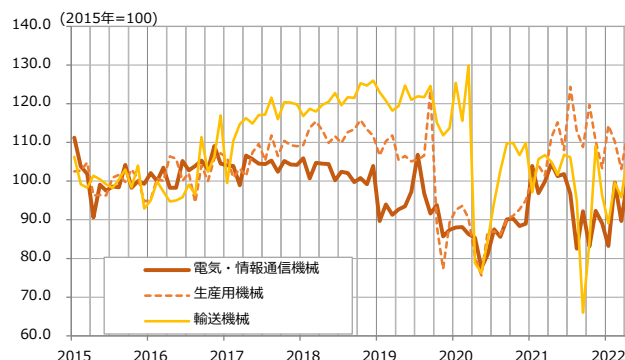
(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

業種別では、増産となったのは、電気・情報通信機械(前月比+11.8%、2カ月ぶり)、輸送機械(同+11.4%、2カ月ぶり)、生産用機械(同+9.2%、3カ月ぶり)等であった。一方、減産となったのは、その他(同-3.9%、3カ月連続)、汎用・業務用機械(同-2.2%、3カ月ぶり)、化学(除、医薬品)(同-0.4%、2カ月ぶり)等であった。

なお、生産と強い関係がある日本銀行大阪支店の実質輸出(季節調整済、2015年=100)を見ると、5月(速報値)は125.0と前月比+9.6%と3カ月ぶりに上昇した(前月: 同-5.1%)。

4月の出荷は101.1で前月比+5.4%と2カ月連続で上昇した。また、在庫は99.2で同-5.0%と2カ月連続で低下した(前月: 出荷: 同+0.7%、在庫: 同-1.7%)。

関西の業種別生産指数の推移(2015年1月~22年4月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

全国4月の鉱工業指数(確報: 季節調整済、2015年=100)を見ると、生産は95.1であった。前月比-1.5%と3カ月ぶりのマイナス(前月: 同+0.3%)。1-3月平均比-0.6%となっている(1-3月期: 前期比+0.8%)。

業種別に見ると、減産となったのは電子部品・デバイス(前月比-6.6%)、生産用機械(同-2.7%)、自動車(同-0.7%)等であった。中国におけるロックダウンによる供給制約もあり、自動車の部品などの物流停滞が影響した。一方、増産となったのは、電気・情報通信機械(同+5.1%)、化学(除、無機・有機化学)(同+4.3%)、汎用・業務用機械(同+3.1%)等であった。

基調判断は「足踏みをしている」と前月の「持ち直しの動きがみられる」から8カ月ぶりに引き下げた。

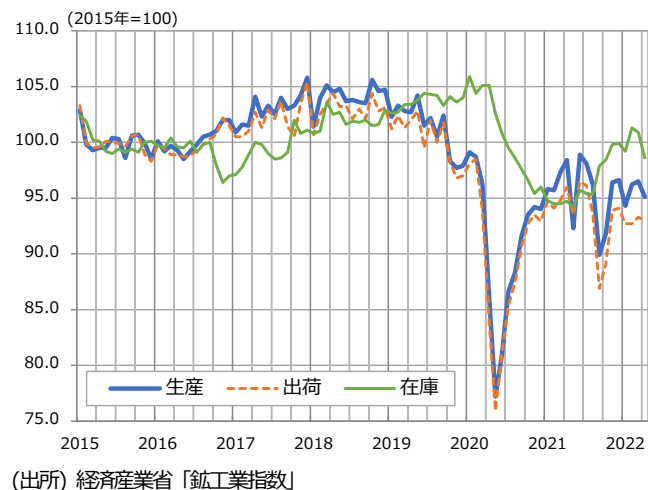
4月の出荷は93.0で同-0.3%と3カ月ぶりに低下。また、在庫は98.6で同-2.3%と2カ月連続で低下した。

製造工業生産予測調査(速報値ベース)によると、5月は前月比+4.8%、6月は同+8.9%といずれも増産が予測されて



いる。ただし、上海市におけるロックダウンが6月1日まで継続されていたこともあり、依然生産の下振れリスクには注視が必要である。なお、過去の傾向的な予測誤差を除去した5月の補正值では、同-0.5%であった。

全国の鉱工業指数の推移(2015年1月~22年4月)



## (2) 完全失業者数と就業者数

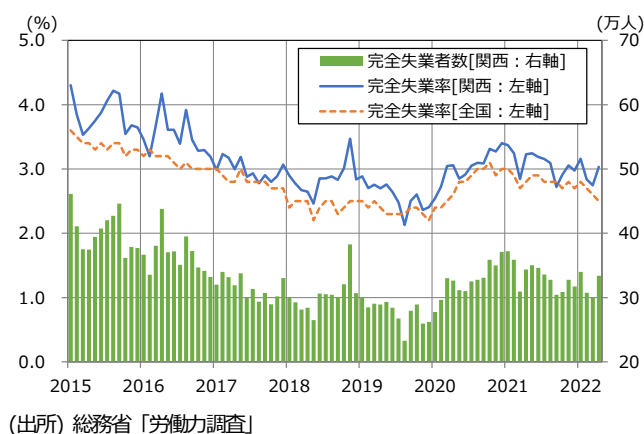
関西4月の完全失業率は3.0%と前月差+0.3%ポイント上昇し、3カ月ぶりの悪化(以下の関西の数値はAPIRによる季節調整値)。完全失業者数は33万人で同+3万人と3カ月ぶりの増加であった一方、就業者数は1,070万人で同+1万人、労働力人口は1,104万人で同+7万人と、それぞれ3カ月連続の増加。非労働力人口は687万人で同-10万人と3カ月連続の減少。前月に続き労働力人口は増加したが、就業者数の増加は小幅であるため、失業率は悪化した。

全国4月の完全失業率(以下、季節調整値)は2.5%となり前月差-0.1%ポイント低下し、3カ月連続の改善。完全失業者数は176万人で前月差-3万人と3カ月連続の減少であった。また、就業者数は6,738万人で前月差+27万人と2カ月連続の増加となった。労働力人口は6,918万人で同+22万人と3カ月連続の増加。非労働力人口は4,117万人で同-37万人と3カ月連続の減少となった。

総じて、関西と全国は同様に、3月21日にまん延防止等重点措置が解除されたことを受け、求職活動を再開する動き

が増えたため、労働力人口の増加が見られた。しかし、関西では就業者数の回復に力強さを欠き、失業率が上昇した。一方、全国では就業者数の増加が労働力人口の増加を上回ったため、失業率が改善した。また、対面型サービス業を含め、休業率は前月より低下した(4月:2.8%、3月:3.6%)ことから、雇用情勢は改善した。

完全失業率の推移(2015年1月~22年4月)



## (3) 求人倍率

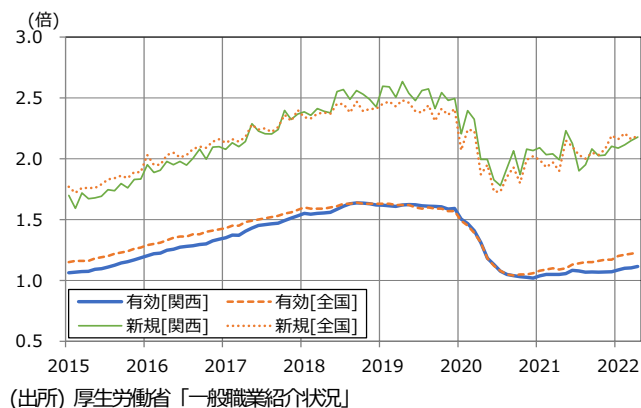
関西4月の有効求人倍率(季節調整値、受理地別)は、1.11倍で前月から0.01ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善。有効求人数の伸び(前月比+1.0%、3カ月ぶりの上昇)が有効求職者数の伸び(同-0.1%、3カ月連続の低下)を上回ったことによる。有効求人数の伸びの要因は、行動制限の解除と経済活動の正常化により、企業が採用活動を再開したためである。なお、有効求職者数の減少幅は前月(同-0.3%)より縮小した。

4月の有効求人倍率(受理地別)を、府県別に降順で見ると、奈良県は1.24倍(前月差+0.01ポイント)、大阪府は1.17倍(同+0.01ポイント)、京都府は1.16倍(同+0.04ポイント)、和歌山県は1.14倍(同+0.01ポイント)、滋賀県は1.06倍(同+0.02ポイント)、兵庫県は0.97倍(同+0.01ポイント)であった。兵庫県は22カ月連続で1倍を下回っている。

雇用の先行指標である新規求人倍率を見ると、関西4月は2.18倍で前月差+0.03ポイントと3カ月連続の上昇。新規求人数が前月比+2.8%(前月:同+7.4%)、新規求職者数は

同+1.3%(前月:同+5.7%)、それぞれ2カ月連続で増加した。新規求人数の増加幅が新規求職者数の増加幅を上回ったため、新規求人倍率は上昇した。

求人倍率(受理地別)の推移(2015年1月~22年4月)



全国と関西の有効求人倍率の比較

|     | 全国   | 関西   | 滋賀県  | 京都府  | 大阪府  | 兵庫県  | 奈良県  | 和歌山県 |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 3月  | 1.22 | 1.10 | 1.04 | 1.12 | 1.16 | 0.96 | 1.23 | 1.13 |
| 4月  | 1.23 | 1.11 | 1.06 | 1.16 | 1.17 | 0.97 | 1.24 | 1.14 |
| 前月差 | 0.01 | 0.01 | 0.02 | 0.04 | 0.01 | 0.01 | 0.01 | 0.01 |

(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

4月の新規求人数を産業別にみれば(原数値)、建設業を除き、すべての産業で前年同月比がプラスであった。宿泊業・飲食サービス業の伸びは同+36.6%となり、全産業で最も高い。GWの国内観光需要を見据えた求人が増えたためである。また、製造業の伸びは同+23.0%であり、13カ月連続で2桁の上昇となっている。

先行きは、経済活動の正常化を受けて、労働需給双方が増加し、人手不足を背景に求人倍率は引き続き上昇すると見込まれる。ただし、資源価格の高騰による企業収益の減少など、労働需要の減少につながる懸念材料もある。

全国4月の有効求人倍率(季節調整値)は1.23倍で前月差+0.01ポイントと4カ月連続の上昇。新規求人倍率は2.19倍で同+0.03ポイントと2カ月ぶりの上昇であった。

#### (4) 現金給与総額

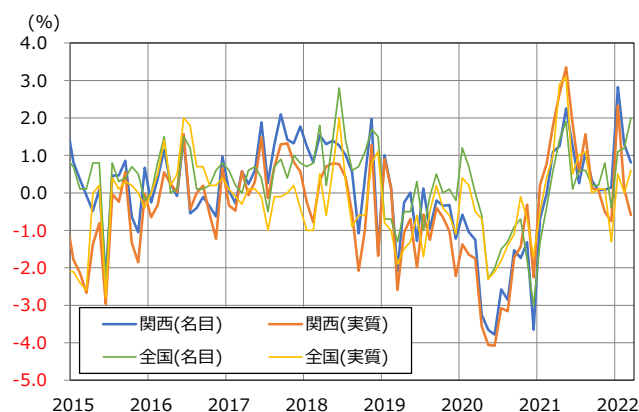
関西2府4県の3月の現金給与総額(APIR推計)は27万7,881円で前年同月比+0.8%と13カ月連続の増加となっ

た。伸びは前月(同+1.3%)より縮小した。コロナ禍の影響がない2019年同月と比較すると、現金給与総額は+1.9%と、3カ月連続でコロナ禍前の水準を超えた。

府県別現金給与総額の伸びを降順でみると、京都府は前年同月比+3.5%(3カ月連続)、滋賀県は同+3.4%(4カ月連続)、兵庫県は同+1.1%(3カ月連続)、和歌山県は同+0.7%(15カ月連続)と、いずれも増加した。一方、大阪府は同-0.1%(5カ月ぶり)、奈良県は同-0.1%(4カ月ぶり)、それぞれ減少した。

また、物価変動の影響(消費者物価指数:持家の帰属家賃を除く総合)を除いた関西2府4県の実質現金給与総額(実質賃金)は、前年同月比-0.6%と3カ月ぶりに減少した。消費者物価指数の上昇率(同+1.4%)が名目賃金の増加率(同+0.8%)を上回ったためである。物価指数は5カ月連続で上昇しており、伸びは前月(同+1.2%)より拡大した。

現金給与総額の推移(前年同月比:2015年1月~22年3月)



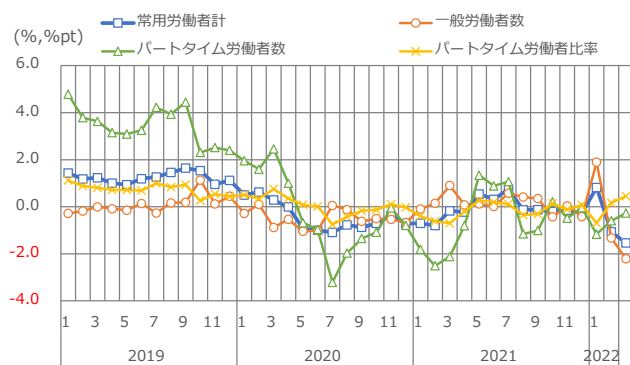
(注) 関西はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2017年平均)で加重平均

(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」、総務省「消費者物価指数」より作成

また、3月の関西2府4県の常用労働者数は前年同月比-1.5%と2カ月連続の減少となった。うち、一般労働者数は同-2.2%と2カ月連続、パートタイム労働者数は同-0.3%と5カ月連続、それぞれ減少した。なお、パートタイム労働者比率は35.4%と前年同月から+0.4%ポイントと2カ月連続で上昇した。

全国4月の現金給与総額(速報値)は、前年同月比+1.7%と4カ月連続の増加となったが、伸びは前月(同+2.0%)から縮小した。所定内給与は同+1.1%と6カ月連続の増加。所定外給与は同+5.9%と13カ月連続の増加。特に支払われた給与は同+7.2%と4カ月連続の増加。また、現金給与総額を消費者物価指数(持家の帰属家賃を除く総合)で除した実質現金給与総額(実質賃金)は同-1.2%と4カ月ぶりに減少した。関西と全国は同様に、食料・エネルギーなどの価格上昇の影響で、実質賃金の伸びがマイナスに転じた。

関西の常用労働者の動態(前年同月比: 2019年1月~22年3月)



(出所) 関西2府4県の自治体の公表資料より作成

## 【内需関連】

### (1) 大型小売店販売額

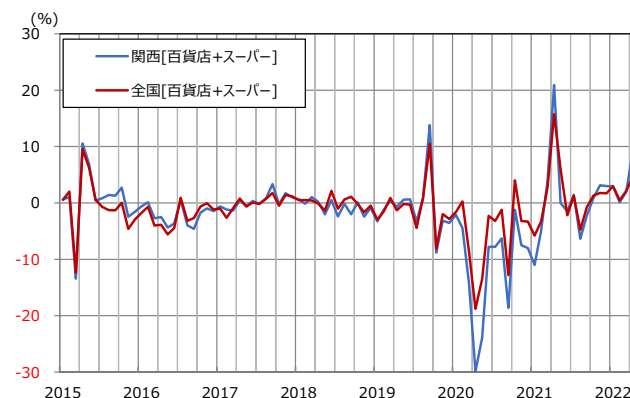
関西4月の大型小売店販売額(百貨店+スーパー、全店ベース)は2,889億円で前年同月比+8.9%と7カ月連続の増加となった(前月:同+2.0%)。ただし、コロナ禍の影響がない2019年同月と比較すると、販売額は-7.6%と依然コロナ禍前の水準を下回っている(前月:2019年同月比-9.0%)。

大型小売店販売額のうち、百貨店は前年同月比+32.3%と大幅増加し、2カ月連続のプラス(前月:同+3.7%)。大幅増となったのは、前年4月に臨時休業や営業時間の短縮等を行っていたためである。商品別にみれば衣料品(2カ月連続)、身の回り品(7カ月連続)等、全ての商品で前年を上回った。ただし、2019年同月比では-15.9%と、マイナス幅は前月の同-17.0%より縮小したものの、依然低水準が続く。

スーパーは前年同月比-0.9%と、3カ月ぶりの減少となっ

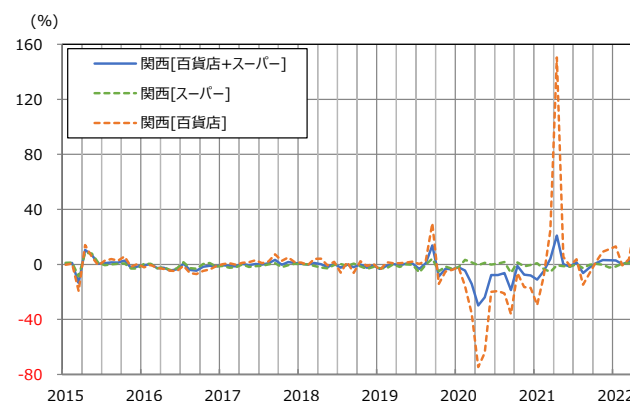
た(前月:同+1.0%)。まん延防止等重点措置が解除され、堅調であった内食需要が鈍化し、飲食料品が前年を下回った。なお、2019年同月比は-2.3%と、前月からマイナス幅は縮小した。

大型小売店販売額の推移(前年同月比:2015年1月~22年4月)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

業態別の推移(前年同月比:2015年1月~22年4月)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

なお、5月の関西百貨店免税売上高(日本銀行大阪支店)は前年同月比+1,369.6%と12カ月連続の増加(前月:同+79.1%)。2019年同月比は-72.8%と、減少幅は前月から拡大し(4月:同-69.6%)、依然としてコロナ前の水準を大きく下回っている。

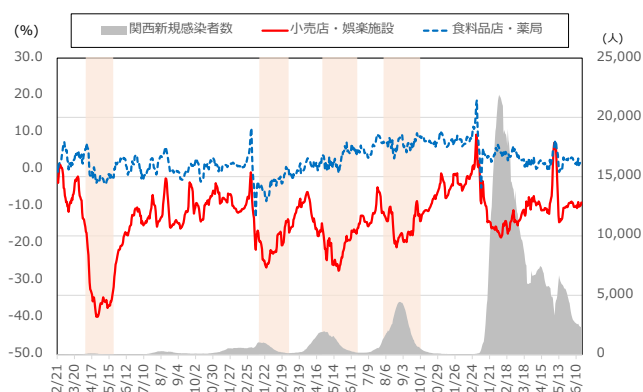
全国4月の大型小売店販売額(全店ベース)は1兆6,238億円で、前年同月比+4.6%と7カ月連続の増加となった(前月:同+2.1%)。うち、百貨店は同+18.2%と2カ月連続(前月:同+4.2%)、スーパーは同+0.6%と3カ月連続(前月:同+1.3%)で、それぞれ増加となった。ただし、2019年同

月比で見ると、販売額は-1.7%と6カ月連続の減少となった(うち、百貨店:同-14.7%、スーパー:同+3.7%)。

なお、小売業販売額を季節調整指数で見れば、前月比+0.8%と2カ月連続の増加。また、前月比の3カ月後方移動平均は+0.5%と2カ月連続の増加。このため、経済産業省は小売業の基調判断を「持ち直しの動きがみられる」と前月の「横ばい傾向にある」から上方修正した。

関西の小売店と娯楽施設への人流(Google 社 COVID-19 コミュニティ モビリティ レポート:ベンチマークからの増減率)を見ると、5月は-7.3%と4月(-9.7%)より+2.4%ポイント増加した。3年ぶりの行動制限のないGWとなったことが人流の回復に繋がった。また、食料品店と薬局への人流も5月は+3.0%となり、4月(+1.5%)から+1.6%ポイント増加となった。このため、5月の大型小売販売額は一層の増加が見込まれよう。

関西の新規陽性者数と人流(2020年2月15日~22年6月19日)



(注1) いずれも7日間後方移動平均。人流の増減率は基準値(2020年1月3日~2月6日の5週間の曜日別中央値)と比較した変化。関西の人流は人口(令和2年国勢調査速報)をウェイトとして計算した2府4県の人流の加重平均。

(注2) 赤色のシャドー部分は緊急事態宣言期間。

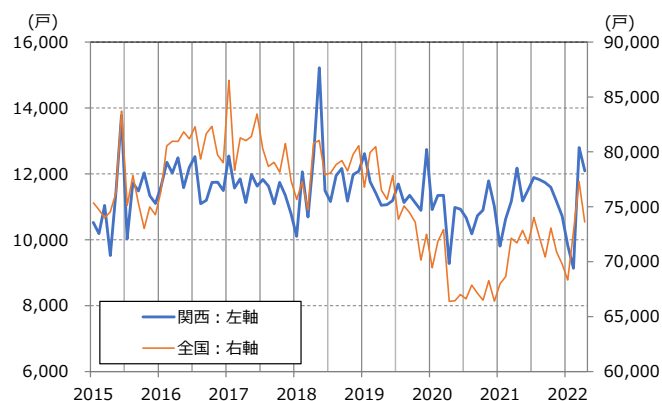
(出所) Google 社「コミュニティ モビリティ レポート」より作成

## (2) 新設住宅着工

関西4月の新設住宅着工戸数(原数値)は1万3,094戸となり、前年同月比-0.7%と2カ月ぶりに減少した(前月:同+14.6%)。

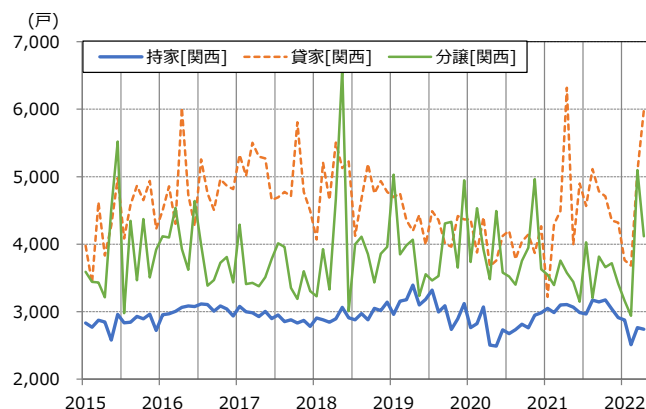
季節調整値(APIR 推計)は1万2,089戸(年率換算値:14万5,069戸)で、前月比-5.5%と2カ月ぶりの減少となった(前月:同+40.1%)。利用関係別に見ると、貸家は5,985戸で同+17.8%と2カ月連続で増加したものの、持家は2,740戸で同-0.8%、分譲は4,117戸で同-19.2%と、それぞれ2カ月ぶりの減少となった。うち、マンションは前月の大幅増加(同+153.7%)の反動もあり、同-26.8%と2カ月ぶりに減少し、2,300戸となった。

新設住宅着工戸数の推移(季節調整値 2015年1月~22年4月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

利用関係別の推移(季節調整値 2015年1月~22年4月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

全国4月の新設住宅着工戸数(原数値)は7万6,179戸となり、前年同月比+2.2%と14カ月連続の増加となった(前月:同+6.0%)。

季節調整値では7万3,622戸(年率換算値:88万3,464戸)で、前月比-4.7%と3カ月ぶりの減少。利用関係別に見



ると、分譲は2万3,070戸と2カ月ぶり(同+3.1%)の増加となったものの、持家は2万1,319戸と2カ月連続(同-2.5%)で、貸家は2万8,711戸と4カ月ぶり(同-12.0%)に、それぞれ減少した。

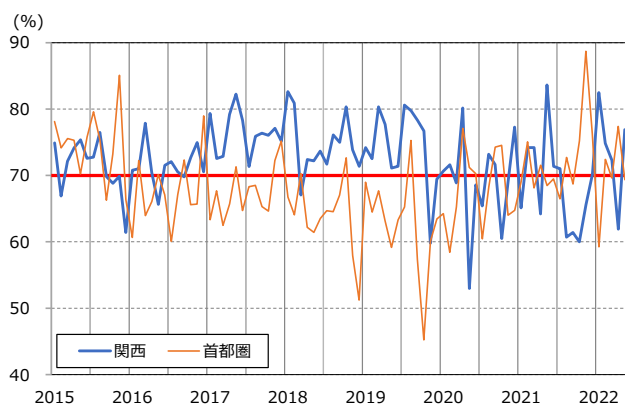
### (3) マンション市場動向

関西5月の新規物件マンション契約率(売却戸数/発売戸数)は76.9%(以下、季節調整値はAPIR推計)で、前月差+15.0%ポイントと4カ月ぶりの上昇となった(前月:同-10.4%ポイント)。好不況の境目(70%)を2カ月ぶりに上回った。契約率を府県別に見ると(以下、原数値)、神戸市部(63.2%)などで低水準となったものの、大阪市部(82.8%)、大阪府下(70.7%)などで高水準となった。また、新規発売戸数は1,379戸で前年同月比+4.4%と、2カ月連続の増加。

5月の首都圏の新規物件マンション契約率は69.4%(季節調整値)、前月差-8.0%ポイントと2カ月ぶりに低下した(前月:同+7.8%ポイント)。好不況の境目(70%)を2カ月ぶりに下回った。また、新規発売戸数は2,466戸で前年同月比-4.3%と、2カ月ぶりに減少した。

関西の4-5月平均契約率は69.4%と70%を割り込んでおり、1-3月平均(76.5%)から-5.3%ポイント低下している。一方、首都圏の4-5月平均契約率は73.4%と好調で、1-3月平均(67.1%)から6.3%ポイントの上昇であった。

新規物件のマンション契約率の推移(2015年1月~22年5月)



(出所) 不動産経済研究所「マンション市場動向」

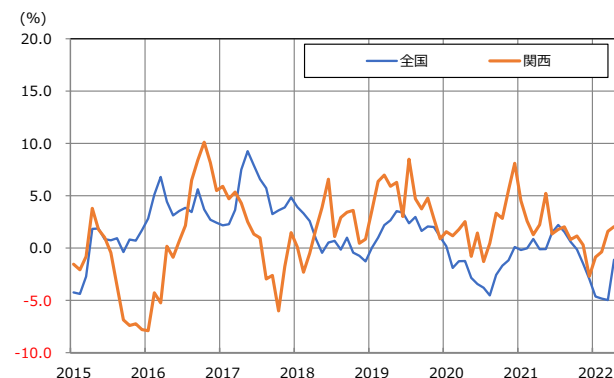
### (4) 建設工事

関西4月の建設工事(出来高ベース)は5,378億円で前年同月比+2.0%と2カ月連続の増加(前月:同+1.6%)。うち、公共工事は1,929億円となり、同+0.1%と3カ月連続の増加となった(前月:同+5.5%)。

なお、4月分の公表時に前年度から3カ年分の値について遡及改定が行われている。

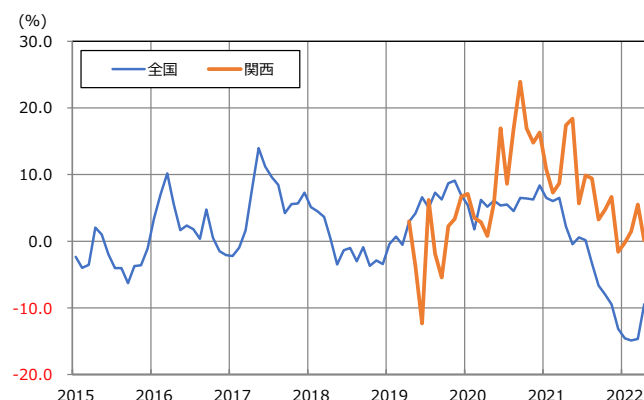
全国4月の建設工事(出来高ベース)は3兆8,186億円、前年同月比-1.1%と7カ月連続の減少となった(前月:同-5.0%)。6カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。うち、公共工事は1兆3,896億円、同-9.5%と9カ月連続の減少となった(前月:同-14.6%)。

建設工事出来高の推移(前年同月比:2015年1月~22年4月)



(注) 2022年4月分の公表時点まで遡及改訂された値を反映している  
(出所) 国土交通省「建設総合統計」

公共工事出来高の推移(前年同月比:2015年1月~22年4月)



(注) 地域別の推移は、22年3月以前は年度報による遡及改定値(直近3年分)、4月以降は最新の公表表から作成。

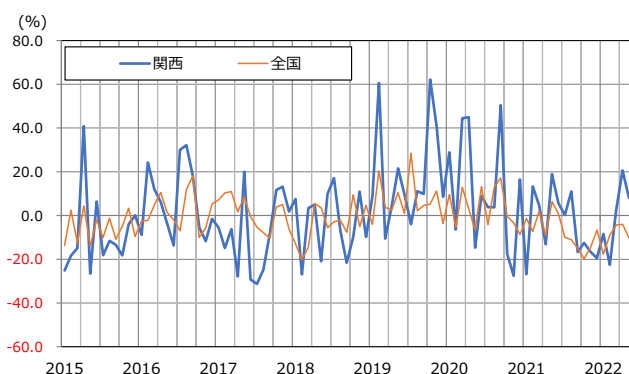
(出所) 国土交通省「建設総合統計」

## (5) 公共工事請負金額

関西 5 月の公共工事請負金額は 1,552 億円、前年同月比 +8.1%と 3 カ月連続の増加となった(前月:同+20.6%)。季節調整値(以下、APIR 推計)では、前月比-12.1%と 4 カ月ぶりの減少となった(前月:同+9.8%)。結果、4-5 月平均は 1-3 月期平均比+30.6%と、大幅に拡大した(1-3 月期:前期比 +4.3%)。

5 月の公共工事請負金額の前年同月比(+8.1%)への寄与度を発注者別にみれば、独立行政法人等(-0.7%ポイント)、その他公共的団体(-0.9%ポイント)が減少に寄与したものの、市区町村(+9.1%ポイント)、国(+0.6%ポイント)が増加に寄与した。

公共工事請負金額の推移(前年同月比: 2015 年 1 月~22 年 5 月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

関西の請負金額は 3 カ月連続の前年比増加と好調だが、全国は同減少が続いている。

全国 5 月の公共工事請負金額は 1 兆 2,672 億円、前年同月比-10.3%と 11 カ月連続の減少(前月:同-4.0%)。季節調整値では前月比+0.2%と 2 カ月ぶりの増加となった(前月:同-10.9%)。結果、4-5 月平均は 1-3 月期平均比+0.9%と、小幅の伸びにとどまった(1-3 月期:前期比+6.6%)。

## 【センチメント】

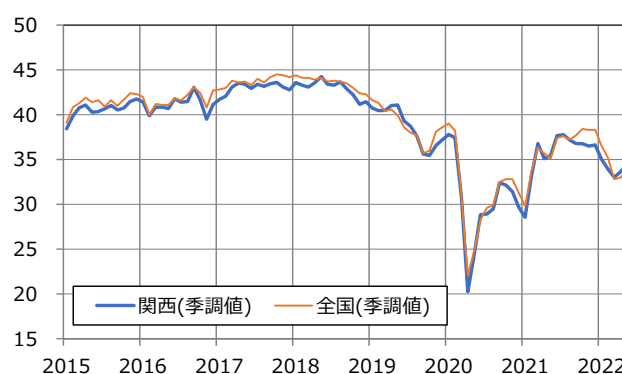
### (1) 消費者態度指数

関西 5 月の消費者態度指数(季節調整値: APIR 推計)は 34.5、前月差+0.8 ポイントと 2 カ月連続で上昇した(前月:

同+0.6 ポイント)。COVID-19 感染状況が落ち着いたことが、消費者心理に好影響した(調査基準日: 5 月 15 日)。

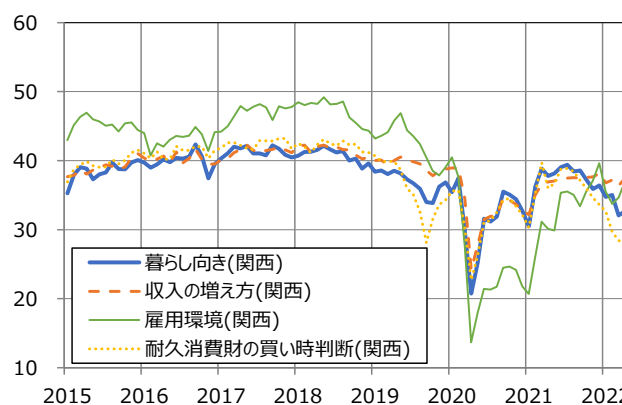
指数構成項目をみれば、雇用環境指数(42.0)は前月差 +4.9 ポイント(3 カ月連続)、暮らし向き指数(32.7)は同 +0.0 ポイント(2 カ月連続)はいずれも上昇した。一方、耐久消費財の買い時判断指数(27.2)は同-0.9 ポイント(10 カ月連続)、収入の増え方指数(37.3)は同-0.2 ポイント(2 カ月ぶり)といずれも低下した。

消費者態度指数の推移(2015 年 1 月~22 年 5 月)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

消費者態度指数構成項目の推移(2015 年 1 月~22 年 5 月)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

全国(季節調整値)は 34.1、前月差+1.1 ポイントと 2 カ月連続で上昇した(前月: 同+0.2 ポイント)。

指数構成項目全てが前月から上昇した。雇用環境指数(39.0)は前月差+2.9 ポイント(2 カ月連続)、暮らし向き指数(32.4)は同+1.2 ポイント(5 カ月ぶり)、収入の増え方指数(37.2)は同+0.4 ポイント(5 カ月ぶり)、耐久消費財の買

い時判断指数(27.9)は同+0.2 ポイント(11 カ月ぶり)であった。このため、内閣府は5月の基調判断を「下げ止まりの動きがみられる」と前月の「弱い動きがみられる」から7カ月ぶりに上方修正した。

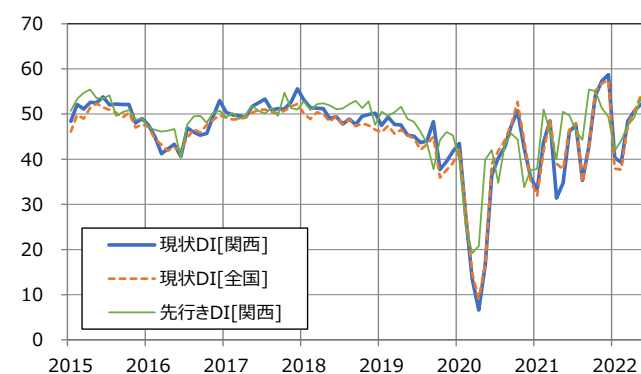
雇用環境をみれば関西、全国とも改善だが、関西の方が改善幅は大きい。一方、収入の増え方や耐久消費財の買い時判断をみれば、全国は両指標とも改善だが関西は悪化となった。

## (2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西 5 月の景気ウォッチャー現状判断 DI(季節調整値)は52.1、前月差+1.5 ポイント上昇し、3 カ月連続で改善した(前月：同+2.2 ポイント)。全国も54.0 と、同+3.6 ポイント上昇し、3 カ月連続で改善(前月：同+2.6 ポイント)。3 年ぶりに行動制限のない GW で人流が大幅増加したこともあり、飲食業や宿泊業など対面型サービス業の回復が景況感の改善に寄与した(調査期間：5 月 25 日から 31 日)。

先行き判断 DI(季節調整値)は、関西は53.4、前月差+4.2 ポイント上昇し、4 カ月連続で改善した(前月：同+1.7 ポイント)。好不況の分かれ目である「50」を6 カ月ぶりに上回った。全国は52.5、同+2.2 ポイント上昇し、4 カ月連続で改善(前月：同+0.2 ポイント)。COVID-19 の感染状況が落ち着き、Go To トラベル事業再開の期待から旅行業を中心に回復を見込む意見がある。一方で、中国のゼロコロナ政策による物流停滞の悪影響を懸念する見方もあるため、先行きの動向については注視を要する。

景気ウォッチャー調査の推移(2015 年 1 月～22 年 5 月)



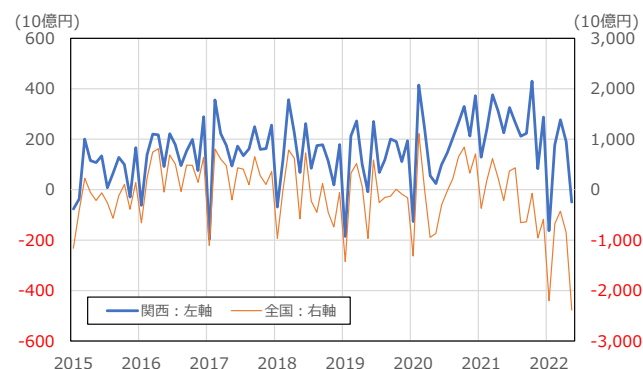
(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

## 【外需関連】

### (1) 貿易概況

財務省「貿易概況(速報)」によれば、関西 5 月の貿易収支は-492 億円と4 カ月ぶりの赤字。全国 5 月の貿易収支は-2 兆 3,847 億円と、10 カ月連続の赤字となった。全国の赤字額は、統計が利用可能な 1979 年 1 月以降、過去最高額であった 2014 年 1 月(-2.8 兆円)に次ぐ大きさとなった。

関西・全国の貿易収支の推移(2015 年 1 月～22 年 5 月)

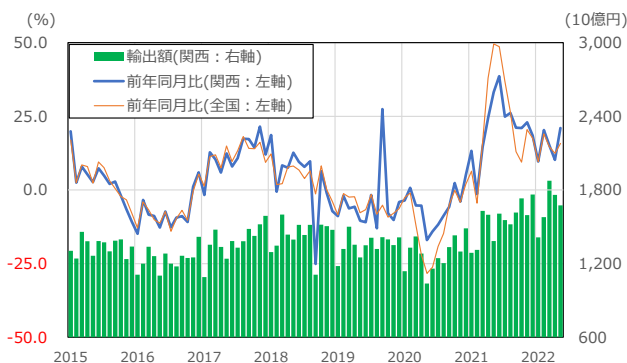


(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

### (2) 輸出

関西 5 月の輸出額(速報)は1 兆 6,741 億円で前年同月比+21.0%と、15 カ月連続の増加となった(前月：同+10.2%)。財別にみれば、主に鉱物性燃料、半導体等製造装置等が増加した。

関西・全国の輸出の推移(2015 年 1 月～22 年 5 月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

全国 5 月の輸出額(速報)は7 兆 2,521 億円で前年同月比+15.8%と、15 カ月連続の増加(前月：同+12.5%)。主に鉄

鋼、鉱物性燃料、半導体等電子部品等が増加に寄与した。

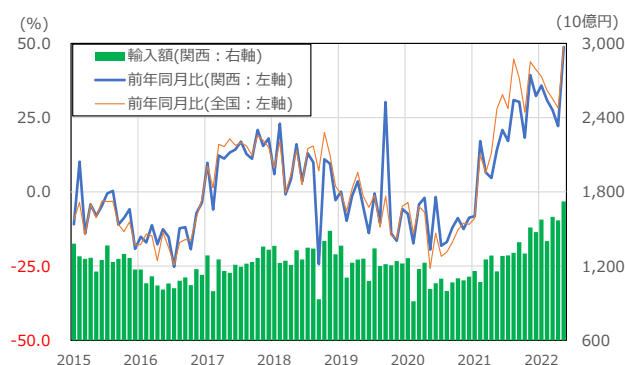
なお、日本銀行大阪支店の「実質輸出入」によれば、関西5月の実質輸出(速報)は125.0(季節調整値、2015年平均=100)で前月比+9.6%と、3カ月ぶりの上昇(前月：同-5.1%)。全国5月の実質輸出は112.4で前月比+3.0%となり、2カ月ぶりの上昇であった(前月：同-6.0%)。結果、4-5月平均の関西の実質輸出は、1-3月平均比-0.9%となった(全国：同-3.8%)。

### (3) 輸入

関西5月の輸入額(速報)は1兆7,233億円で、前年同月比+48.8%、16カ月連続の増加(前月：同+22.2%)。税関別の統計が利用可能な1988年1月以降、過去最高額となった。財別に見ると、主に原油及び粗油、天然ガス及び製造ガス等が増加した。

全国5月の輸入額(速報)は9兆6,367億円で、前年同月比+48.9%と16カ月連続の増加(前月：同+28.3%)で、統計が利用可能な1979年1月以降の過去最高額を4月に引き続き2カ月連続で更新した。財別にみると原粗油、石炭、液化天然ガス等が増加した。増加への寄与度において、原粗油が最も高くなるのは14カ月連続である。

関西・全国の輸入の推移(2015年1月~22年5月)



(出所) 大阪税関調査係「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

また、日本銀行大阪支店の「実質輸出入」によれば、関西5月の実質輸入(速報)は108.0(季節調整値、2015年平均=100)で前月比+10.7%と、3カ月ぶりの上昇(前月：同-6.8%)。全国5月の実質輸入は111.9で前月比+7.4%とな

り、3カ月ぶりの上昇であった(前月：同-1.6%)。結果、4-5月平均の関西の実質輸入は、1-3月平均比-3.3%となった(全国：同+0.5%)。

### (4) 地域別貿易

関西5月の貿易収支を地域別に見ると、対アジアの貿易収支は+1,960億円と4カ月連続の黒字(前年同月比-23.3%)。うち、対中貿易収支は-881億円と3カ月連続の赤字(同+430.4%)。対米貿易収支は+1,199億円の黒字(同+58.1%)、対EU貿易収支は-764億円と5カ月連続の赤字となった(同+394.0%)。

対アジア向け輸出額(1兆1,082億円)は前年同月比+18.4%と18カ月連続の増加(前月：同+5.4%)。輸入額(9,122億円)は同+34.1%と16カ月連続の増加となった(前月：同+2.6%)。輸出増に寄与した品目は半導体等製造装置、非鉄金属等で、輸入増に寄与した品目は衣類及び同附属品、有機化合物等であった。

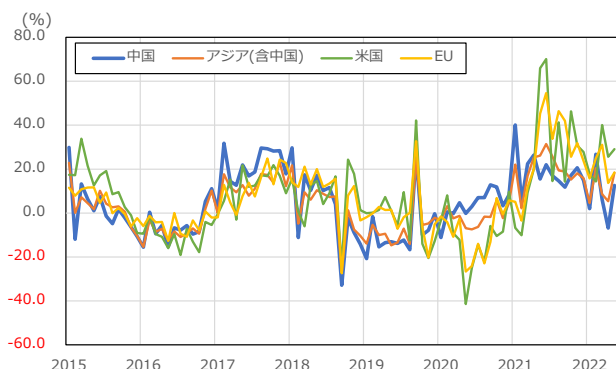
うち、対中輸出額(4,094億円)は前年同月比+12.6%と2カ月ぶりの増加(前月：同-6.8%)。輸入額(4,976億円)は同+30.9%と2カ月ぶりの増加となった(前月：同-6.5%)。輸出増に寄与した品目は半導体等製造装置、非鉄金属等で、輸入増に寄与した品目は衣類及び同附属品、無機化合物等であった。

対米輸出額(2,450億円)は前年同月比+29.1%と15カ月連続の増加(前月：同+25.6%)。輸入額(1,250億円)は同+9.8%と2カ月ぶりの増加(前月：同-4.6%)。輸出増に寄与した品目は建設用・鉱山用機械、原料品等で、輸入増に寄与した品目は有機化合物、半導体等製造装置等であった。

対EU輸出額(1,661億円)は前年同月比+18.4%と15カ月連続の増加(前月：同+13.7%)。輸入額(2,426億円)は同+55.7%と10カ月連続の増加(前月：同+46.5%)。輸出増に寄与した品目は無機化合物、鉱物性燃料等で、輸入増に寄与した品目は医薬品、木材等であった。



関西の地域別輸出推移(前年同月比:2015年1月～22年5月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

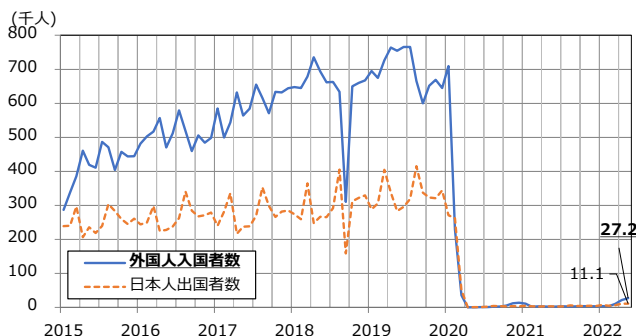
### (5) 関空の出入国者数

法務省「出入国管理統計(速報値)」によれば、5月の関空経由の外国人入国者数は2万7,161人となった(2019年同月比-96.4%)。4月10日から入国者数の上限が引き上げられたこともあり、前月(2万1,616人)から増加し、2カ月連続で2万人を超える水準となった。ただし、入国者数を1日当たりに均してみれば876人と、コロナ禍の影響がない19年同月(2万4,330人)と比べれば、依然本格的な回復には至っていない。

なお、政府は6月1日から1日当たりの入国者数の上限を1万人から2万人に引き上げ、10日から団体ツアーに限定した形で観光客の受け入れを再開した。今後は緩和策により入国者数は緩やかな増加が見込まれよう。

また、日本人出国者数は1万1,122人と前月(1万736人)から増加し、2019年同月比-96.1%となった(前月：同-96.8%)。

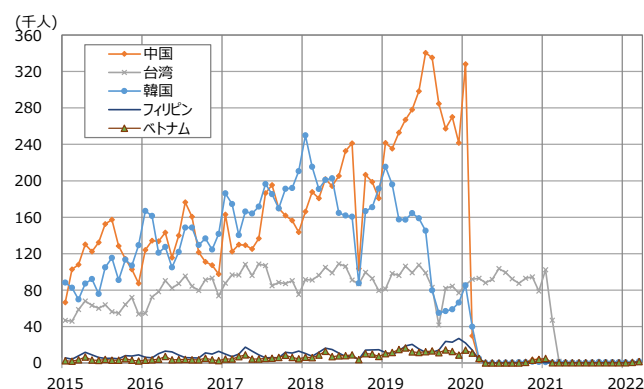
訪日外客数と出国日本人数の推移(2015年1月～22年5月)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

国籍別・地域別にみれば(出入国管理統計月報)、3月の関空訪日外客の総数はビジネス目的への入国制限緩和策の影響もあり1万284人となり、前月(3,499人)から増加した(2019年同月比-98.6%)。上位5カ国・地域をみれば、韓国からの入国者が1,736人(同-98.9%)と最多であった。次いでベトナムが1,411人(同-90.4%)、中国が988人(同-99.6%)、フィリピンが675人(同-94.9%)、台湾が673人(同-99.3%)と続く。

国籍別・地域別訪日外客数(2015年1月～22年3月)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

### 【中国景気モニター】

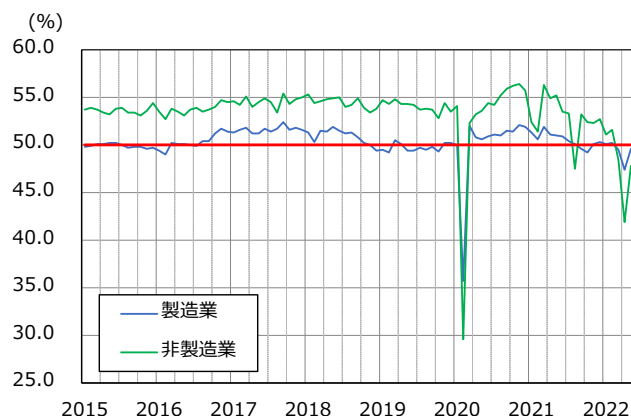
#### (1) センチメント

5月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は49.6%で、前月差+2.2%ポイントと3カ月ぶりの上昇だが、景気分岐点である「50」を3カ月連続で下回った。製造業PMIのうち、生産指数は49.7%で同+5.3%ポイントと6カ月ぶり、輸出新規受注指数は46.2%で同+4.6%ポイントと3カ月ぶり、雇用指数は47.6%で同+0.4%ポイントと3カ月ぶりに、いずれも改善した。

また、サービス業・流通業界などの景気を表す指標である非製造業PMIは前月差+5.9%ポイントの47.8%となった。3カ月ぶりの改善だが、景気分岐点を3カ月連続で下回った。

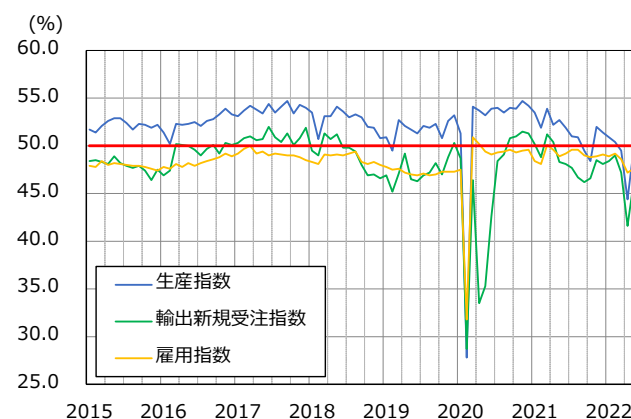
上海市のロックダウンが段階的に解除され、一部の企業が操業を再開するなど先月と比べ幾分改善したが、北京市でも行動制限が実施されるなど、景況感の回復は弱い。

製造業・非製造業購買担当者景況指数(2015年1月～22年5月)



(出所) 中国国家统计局、CEIC データベース

製造業購買担当者景況指数(2015年1月～22年5月)



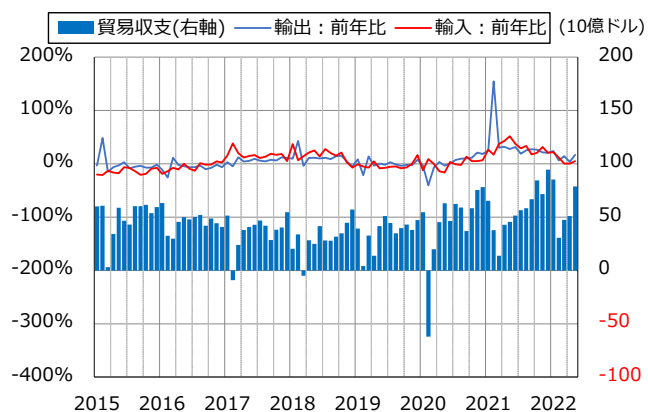
(出所) 中国国家统计局、CEIC データベース

## (2) 貿易動向

5月の貿易収支(速報値, ドル・ベース)は787.5億ドルで、27カ月連続の黒字となった。輸出額は3,082.4億ドルで、前年同月比+16.8%と24カ月連続で増加した(前月:同+3.7%)。一方、輸入額は2,294.9億ドルで、同+5.1%と21カ月連続で増加(前月:同+0.7%)。輸出の増加は、ゼロコロナ政策により停滞していた上海市などの経済活動が、段階的に再開してきた影響で物流の混乱が和らいだことによる。輸入の増加幅は前月から小幅拡大したが、原油価格の上昇を受けた影響が大きい。

結果、貿易総額(輸出+輸入)は、同+11.5%と24カ月連続で拡大した(前月:同+2.3%)。

中国の貿易動向(ドル・ベース, 2015年1月～22年5月)



(出所) 中国税関、CEIC データベース

地域別に見ると、5月の対日貿易収支は+0.6億ドル(前月: -32.4億ドル)で、4カ月ぶりの黒字となった。対日輸出額は144.4億ドルとなり、前年同月比+3.7%と2カ月ぶりの増加(前月: 同-9.4%)。対日輸入額は143.8億ドルとなり、同-13.7%と3カ月連続の減少となった(前月: 同-15.1%)。

対韓貿易収支は-11.3億ドル(前月: -30.8億ドル)の赤字となった。対韓輸出額は154.8億ドルで前年同月比+23.7%と23カ月連続の増加。対韓輸入額は166.1億ドルとなり、同-3.0%と2カ月連続の減少であった。

対ASEAN貿易収支は168.9億ドル(前月: 114.4億ドル)の黒字となった。対ASEAN輸出額は493.4億ドルで前年同月比+25.9%と24カ月連続の増加。対ASEAN輸入額は324.5億ドルで同-2.0%と24カ月ぶりの減少であった。

対米貿易収支は360.7億ドル(前月: 322.4億ドル)の黒字となった。対米輸出額は519.5億ドルで前年同月比+15.7%と24カ月連続で増加した。また、対米輸入額は158.8億ドルで、同+21.2%と4カ月ぶりの増加であった。

対EU貿易収支は232.1億ドル(前月: 196.4億ドル)の黒字となった。対EU輸出額は480.1億ドルで前年同月比+20.3%と19カ月連続の増加(前月: 同+7.9%)。また、対EU輸入額は248.0億ドルとなり、同-9.0%と3カ月連続の減少となった(前月: 同-12.5%)。

貿易総額のシェアの上位3カ国(ASEAN、EU、米国)をみると、最大の相手国であるASEAN向けは前年同月比+13.1%

と24カ月連続(前月:同+6.2%)、EUは同+8.4%と2カ月ぶり(前月:同-0.3%)、米国は同+17.0%と24カ月連続で(前月:同+6.8%)、それぞれ増加した。

### (3) 工業生産

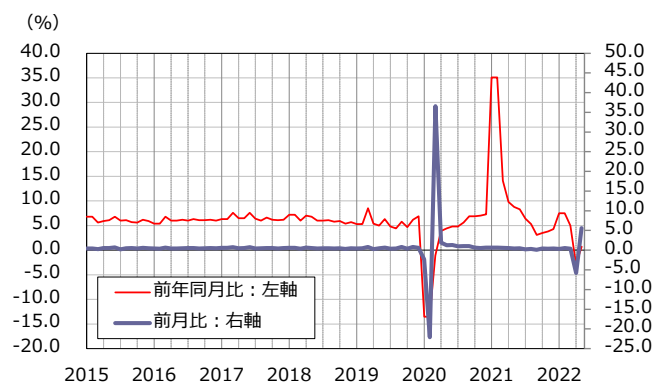
5月の工業生産は前月比+5.61%上昇した。大幅に減速した4月(同-5.8%)から加速に転じた。

前年同月比では+0.7%の上昇、4月(同-2.9%)から+3.6%ポイントの大幅加速となった。ゼロコロナ政策によるロックダウンの影響が、一部地域の解除などで和らいできた。

産業別(主要17産業ベース)では、段階的な経済活動の再開により、減産となっていたいくつかの業種が増産に転じた。4月も小幅で増産を維持していた電気機械・機械製造業(前年同月比+7.3%)やパソコン・通信設備製造業(同+7.3%)はその増加幅を拡大。化学原料・化学製品製造業(同+5.0%)、食品製造業(同+3.5%)なども増産となった。一方、医薬製造業(同-12.3%)、自動車製造業(同-7.0%)、通用設備製造業(同-6.8%)、非金属鉱物製品製造業(同-5.4%)等は減産となった。

なお、国家统计局が2017年3月から公表しているサービス産業生産指数を見ると、5月は前年同月比-5.1%と3カ月連続の減少となった(前月:同-6.1%)。依然、サービス産業の回復は弱い。

工業生産指数(2015年1月~22年5月)



(出所) 中国国家统计局、CEIC データベース

サービス産業生産指数(2017年1月~22年5月)



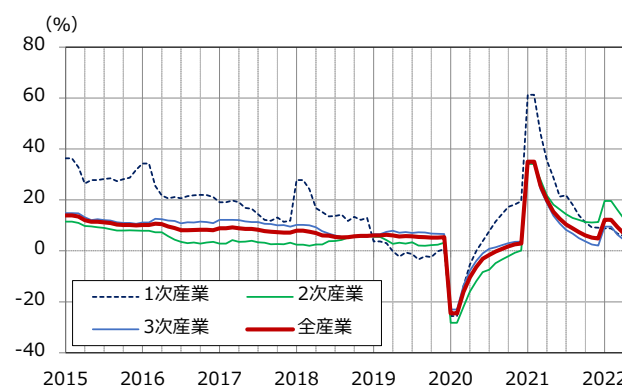
(出所) 中国国家统计局、CEIC データベース

### (4) 固定資産投資

1-5月期累積固定資産投資(名目:20.6兆元)は前年同期比+6.2%と増加したが、1-4月期(以下、前月)の伸びから-0.6%ポイント減速した。うち、国有資産投資(8.9兆元)は同+8.5%と前月から-0.6%ポイント、民間資産投資(11.7兆元)は同+4.1%と前月から-1.2%ポイントと、いずれも3カ月連続で減速した。

産業別に見ると、第1次産業は前年同期比+5.8%増加し、伸びは前月から横ばい。第2次産業は同+11.0%増加だが、伸びは前月(同+12.6%)から減速。第3次産業も同+4.1%増加したが、伸びは前月(同+4.3%)から減速となった。

固定資産投資(産業別)累積伸び率(2015年1月~22年5月)



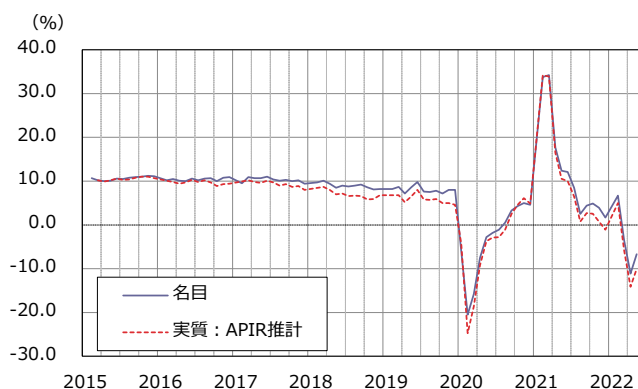
(出所) 中国国家统计局、CEIC データベース

### (5) 消費

5月の社会消費品小売総額(名目)は3.36兆円で前年同月比-6.7%と3カ月連続で減少した。マイナス幅は前月(同-

11.1%)から幾分縮小したが、依然マイナス幅が大きく、回復が弱い。そのうち、飲食店収入は同-21.1%と、前月(同-22.7%)に続き、2割以上の減少となった。都市封鎖が続く上海市のほか、北京市も5月1日から飲食店の店内飲食を禁止したことが影響した。また、電子商取引の小売総額は1.09兆円で、同+2.9%と2カ月ぶりにプラスとなった。

社会消費品小売総額(2015年1月~22年5月)

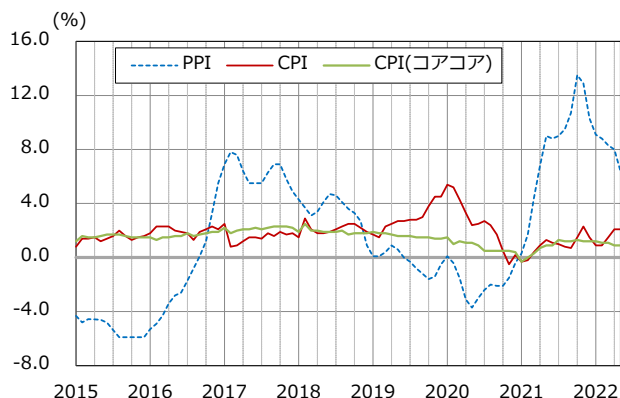


(出所)中国国家统计局、CEICデータベース

#### (6) 物価水準

5月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+2.1%と15カ月連続の上昇。伸びは前月から横ばいとなった。食品価格は同+2.3%と上昇し、ガソリン価格(同+27.6%)などエネルギー価格は前月に引き続き大幅に上昇した。なお、食料・エネルギーを除く消費者物価コアコア指数は同+0.9%と15カ月連続で上昇し、伸びは前月から横ばいとなった。

消費者物価指数・生産者物価指数(2015年1月~22年5月)



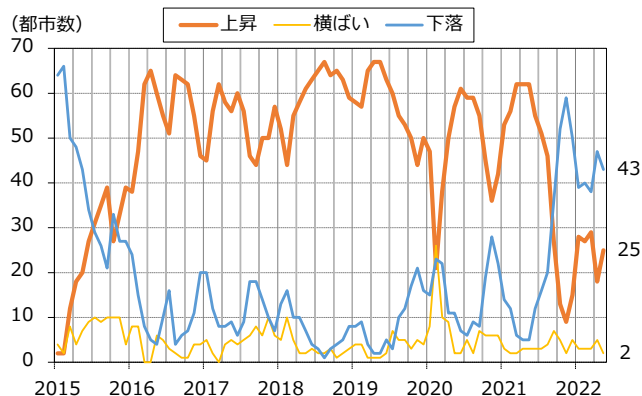
(出所)中国国家统计局、CEICデータベース

また、生産者物価指数(PPI)は前年同月比+6.4%と17カ月連続の上昇だが、伸びは前月(同+8.0%)より縮小し、7カ月連続で減速した。業種別に見ると石炭採掘・洗浄業(同+37.2%)や石油・天然ガス採掘業(同+34.0%)などエネルギー関連産業では前月に引き続き大幅に上昇した。

#### (7) 不動産市場

5月の不動産市場(新築住宅価格)は、中国主要70都市のうち、住宅価格が上昇した都市数は25で前月から7都市増加。一方、下落した都市数は43で前月から4都市減少。また、横ばいの都市数は2で前月から3都市減少。価格が下落した都市数は2カ月ぶりに減少したが、依然全体の6割以上を占めている。ゼロコロナ政策による景気の悪化で、雇用に対する先行き不安感が高まっており、住宅需要の回復力が鈍い。

主要70都市新築住宅価格動向(2015年1月~22年5月)



(出所)中国国家统计局、CEICデータベース

#### (8) 中国経済レビュー

5月の中国経済は、上海市で経済活動が段階的に再開されたため、4月のダメージからやや持ち直した。しかし、特に雇用と内需ではゼロコロナ政策の影響はなお強い。

上海市での経済活動が段階的に再開されたことにより、物流の混乱が和らぎ、生産再開の動きが見られた。その結果、工業生産は前月からプラスに転じ、輸出も拡大した。

一方、小売り消費と住宅需要は持ち直し傾向があるが、回復が弱い。内需不振は輸入の回復が鈍いことにも反映されてい



る。雇用が悪化するなか、家計が節約志向を強めていることが影響した。加えて、上海市の他に北京市でも行動制限が強化され、ゼロコロナ政策による内需の停滞が続く。

中国の李克強首相は5月に開いた全国の政府職員向け会議で、失業率の低下と経済成長の維持に向けた対応を指示した。しかし、5月に都市部の失業率(5.9%)は高止まり、前月(6.1%)よりわずかに幅減少した。6月にもゼロコロナ政策の影響が続くと見られるため、4-6月期の中国経済には下押し圧力となろう。

---

Contact : 野村亮輔・吉田茂一

Tel. 06-6485-7694

E-mail. [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp)

---

【主要月次統計】

| 月次統計                       | 21/6M   | 21/7M   | 21/8M   | 21/9M   | 21/10M  | 21/11M  | 21/12M  | 22/1M   | 22/2M   | 22/3M   | 22/4M   | 22/5M   |
|----------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 生産                         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |
| [関西]鉱工業生産(季節調整値、15年=100)   | 100.0   | 99.0    | 95.8    | 92.0    | 90.8    | 93.8    | 93.6    | 96.4    | 97.0    | 93.8    | 96.9    | UN      |
| [関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)       | 3.4     | -1.0    | -3.2    | -4.0    | -1.3    | 3.3     | -0.2    | 3.0     | 0.6     | -3.3    | 3.3     | UN      |
| [関西]〃 出荷指数(季節調整値、15年=100)  | 99.7    | 96.2    | 95.1    | 88.1    | 88.6    | 92.8    | 94.3    | 97.5    | 95.2    | 95.9    | 101.1   | UN      |
| [関西]〃 出荷指数(季節調整値、前月比)      | 3.1     | -3.5    | -1.1    | -7.4    | 0.6     | 4.7     | 1.6     | 3.4     | -2.4    | 0.7     | 5.4     | UN      |
| [関西]〃 在庫指数(季節調整値、15年=100)  | 92.9    | 97.2    | 97.4    | 101.4   | 102.4   | 104.0   | 105.4   | 104.2   | 106.2   | 104.4   | 99.2    | UN      |
| [関西]〃 在庫指数(季節調整値、前月比)      | -2.9    | 4.6     | 0.2     | 4.1     | 1.0     | 1.6     | 1.3     | -1.1    | 1.9     | -1.7    | -5.0    | UN      |
| [全国]鉱工業生産(季節調整値、15年=100)   | 98.9    | 98.1    | 96.2    | 89.9    | 91.8    | 96.4    | 96.6    | 94.3    | 96.2    | 96.5    | 95.1    | UN      |
| [全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)       | 7.2     | -0.8    | -1.9    | -6.5    | 2.1     | 5.0     | 0.2     | -2.4    | 2.0     | 0.3     | -1.5    | UN      |
| [全国]〃 出荷指数(季節調整値、15年=100)  | 96.5    | 96.1    | 93.6    | 86.9    | 89.1    | 93.9    | 94.1    | 92.7    | 92.7    | 93.3    | 93.0    | UN      |
| [全国]〃 出荷指数(季節調整値、前月比)      | 3.2     | -0.4    | -2.6    | -7.2    | 2.5     | 5.4     | 0.2     | -1.5    | 0.0     | 0.6     | -0.3    | UN      |
| [全国]〃 在庫指数(季節調整値、15年=100)  | 95.7    | 95.4    | 95.3    | 97.9    | 98.4    | 99.8    | 99.9    | 99.2    | 101.3   | 100.9   | 98.6    | UN      |
| [全国]〃 在庫指数(季節調整値、前月比)      | 1.6     | -0.3    | -0.1    | 2.7     | 0.5     | 1.4     | 0.1     | -0.7    | 2.1     | -0.4    | -2.3    | UN      |
| 労働                         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |
| [関西]完全失業率(季節調整値)           | 3.2     | 3.2     | 3.1     | 2.7     | 2.9     | 3.1     | 3.0     | 3.2     | 2.8     | 2.7     | 3.0     | UN      |
| [関西]完全失業率(原数値)             | 3.4     | 3.3     | 3.2     | 2.9     | 2.9     | 2.7     | 2.7     | 3.0     | 2.8     | 2.8     | 3.1     | UN      |
| [全国]完全失業率(季節調整値)           | 2.9     | 2.8     | 2.8     | 2.8     | 2.7     | 2.8     | 2.7     | 2.8     | 2.7     | 2.6     | 2.5     | UN      |
| [関西]有効求人倍率(季節調整値)          | 1.08    | 1.08    | 1.07    | 1.07    | 1.07    | 1.07    | 1.07    | 1.09    | 1.10    | 1.10    | 1.11    | UN      |
| [全国]有効求人倍率(季節調整値)          | 1.13    | 1.14    | 1.15    | 1.15    | 1.16    | 1.17    | 1.17    | 1.20    | 1.21    | 1.22    | 1.23    | UN      |
| [関西]新規求人倍率(季節調整値)          | 2.13    | 1.90    | 1.95    | 2.08    | 2.03    | 2.03    | 2.10    | 2.09    | 2.11    | 2.15    | 2.18    | UN      |
| [全国]新規求人倍率(季節調整値)          | 2.10    | 2.03    | 2.00    | 2.05    | 2.03    | 2.08    | 2.19    | 2.16    | 2.21    | 2.16    | 2.19    | UN      |
| [関西]名目現金給与総額(2府4県、前年同月比%)  | 1.3     | 0.3     | 1.1     | 0.3     | 0.1     | 0.1     | 0.1     | 2.8     | 1.3     | 0.8     | UN      | UN      |
| [関西]実質現金給与総額(2府4県、前年同月比%)  | 1.9     | 0.6     | 1.6     | 0.1     | 0.1     | -0.5    | -0.8    | 2.3     | 0.1     | -0.6    | UN      | UN      |
| [全国]現金給与総額(前年同月比%)         | 0.1     | 0.6     | 0.6     | 0.2     | 0.2     | 0.8     | -0.4    | 1.1     | 1.2     | 2.0     | 1.7     | UN      |
| 小売                         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |
| [関西]大型小売店販売額(10億円)         | 289.3   | 309.2   | 278.5   | 269.0   | 291.3   | 306.5   | 384.0   | 298.0   | 265.5   | 298.9   | 288.9   | UN      |
| [関西]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)    | -1.5    | 1.4     | -6.4    | -2.3    | 0.9     | 3.1     | 3.0     | 2.9     | 0.1     | 2.0     | 8.9     | UN      |
| [全国]大型小売店販売額(10億円)         | 1,642.1 | 1,713.7 | 1,607.8 | 1,556.4 | 1,651.8 | 1,707.8 | 2,139.2 | 1,676.7 | 1,503.6 | 1,705.3 | 1,623.8 | UN      |
| [全国]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)    | -2.2    | 1.3     | -4.8    | -0.7    | 1.3     | 1.8     | 1.7     | 3.0     | 0.5     | 2.1     | 4.6     | UN      |
| 住宅・建設                      |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |
| [関西]新設住宅着工(原数値、戸数)         | 11,571  | 13,184  | 11,194  | 12,436  | 11,753  | 11,450  | 10,201  | 8,729   | 8,873   | 13,175  | 13,094  | UN      |
| [関西]新設住宅着工(原数値、前年同月比%)     | 5.4     | 11.9    | 15.2    | 9.9     | 6.3     | -5.4    | -2.4    | 0.1     | -14.1   | 14.6    | -0.7    | UN      |
| [全国]新設住宅着工(原数値、戸数)         | 76,312  | 77,182  | 74,303  | 73,178  | 78,004  | 73,414  | 68,393  | 59,690  | 64,614  | 76,120  | 76,179  | UN      |
| [全国]新設住宅着工(原数値、前年同月比%)     | 7.3     | 9.9     | 7.5     | 4.3     | 10.4    | 3.7     | 4.2     | 2.1     | 6.3     | 6.0     | 2.2     | UN      |
| [関西]新設住宅着工(季節調整値、戸数)       | 11,529  | 11,889  | 11,825  | 11,735  | 11,589  | 11,162  | 10,720  | 9,818   | 9,134   | 12,797  | 12,089  | UN      |
| [関西]新設住宅着工(季節調整値、前月比%)     | 3.2     | 3.1     | -0.5    | -0.8    | -1.2    | -3.7    | -4.0    | -8.4    | -7.0    | 40.1    | -5.5    | UN      |
| [全国]新設住宅着工(季節調整値、戸数)       | 71,657  | 74,026  | 72,176  | 70,432  | 73,067  | 70,888  | 69,811  | 68,318  | 72,671  | 77,278  | 73,622  | UN      |
| [全国]新設住宅着工(季節調整値、前月比%)     | -1.6    | 3.3     | -2.5    | -2.4    | 3.7     | -3.0    | -1.5    | -2.1    | 6.4     | 6.3     | -4.7    | UN      |
| [関西]マンション契約率(季節調整値)        | 71.4    | 71.0    | 60.7    | 61.4    | 60.0    | 65.6    | 70.2    | 82.5    | 74.8    | 72.3    | 61.9    | 76.9    |
| [関西]マンション契約率(原数値)          | 73.2    | 73.4    | 65.0    | 59.4    | 57.3    | 65.6    | 73.5    | 77.5    | 79.2    | 72.9    | 59.8    | 72.0    |
| [首都圏]マンション契約率(季節調整値)       | 69.5    | 66.5    | 72.7    | 68.7    | 75.2    | 88.7    | 76.3    | 59.2    | 72.4    | 69.6    | 77.4    | 69.4    |
| [首都圏]マンション契約率(原数値)         | 72.5    | 68.3    | 73.0    | 67.7    | 71.4    | 79.9    | 73.5    | 58.4    | 73.3    | 75.2    | 79.6    | 70.2    |
| [関西]建設工事(総合、10億円)          | 525.8   | 532.4   | 547.7   | 576.8   | 592.2   | 616.2   | 628.8   | 624.0   | 609.7   | 609.6   | 537.8   | UN      |
| [関西]建設工事(総合、前年同月比%)        | 1.3     | 1.8     | 2.0     | 0.8     | 1.2     | 0.3     | -2.7    | -0.9    | -0.4    | 1.6     | 2.0     | UN      |
| [全国]建設工事(総合、10億円)          | 3,935.9 | 4,076.6 | 4,222.4 | 4,473.3 | 4,644.5 | 4,666.4 | 4,694.2 | 4,532.3 | 4,395.0 | 4,462.6 | 3,818.6 | UN      |
| [全国]建設工事(総合、前年同月比%)        | 1.5     | 2.2     | 1.5     | 0.6     | -0.1    | -1.5    | -2.9    | -4.6    | -4.8    | -5.0    | -1.1    | UN      |
| [全国]建設工事(公共工事、10億円)        | 1,538.5 | 1,602.5 | 1,679.0 | 1,837.2 | 1,969.9 | 2,014.9 | 2,016.9 | 1,949.1 | 1,862.7 | 1,946.1 | 1,389.6 | UN      |
| [全国]建設工事(公共工事、前年同月比%)      | 0.6     | 0.2     | -3.3    | -6.6    | -8.0    | -9.5    | -13.2   | -14.6   | -14.9   | -14.6   | -9.5    | UN      |
| [関西]公共工事前払保証額(10億円)        | 169.4   | 140.8   | 122.0   | 150.5   | 136.7   | 80.5    | 89.6    | 61.6    | 65.7    | 168.7   | 335.0   | 155.2   |
| [関西]公共工事前払保証額(前年同月比%)      | 5.6     | 0.2     | 11.0    | -16.7   | -12.5   | -16.6   | -19.5   | -8.4    | -22.5   | 2.2     | 20.6    | 8.1     |
| [全国]公共工事前払保証額(10億円)        | 1,650.8 | 1,389.8 | 1,157.5 | 1,268.2 | 1,076.7 | 753.4   | 685.9   | 520.9   | 589.7   | 1,449.9 | 2,010.5 | 1,267.2 |
| [全国]公共工事前払保証額(前年同月比%)      | 0.7     | -9.9    | -11.0   | -15.1   | -19.8   | -14.5   | -6.6    | -17.7   | -9.1    | -4.3    | -4.0    | -10.3   |
| 消費者心理                      |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |
| [関西]消費者態度指数(季節調整値)         | 37.7    | 37.8    | 37.2    | 36.8    | 36.8    | 36.5    | 36.6    | 35.0    | 33.9    | 33.0    | 33.6    | 34.5    |
| [関西]〃 暮らし向き(季節調整値)         | 39.1    | 39.4    | 38.4    | 38.6    | 37.2    | 35.9    | 36.4    | 34.8    | 35.0    | 32.1    | 32.7    | 32.7    |
| [関西]〃 収入の増え方(季節調整値)        | 37.4    | 37.5    | 37.5    | 37.5    | 37.6    | 37.6    | 38.2    | 36.8    | 37.2    | 36.4    | 37.4    | 37.3    |
| [関西]〃 雇用環境(季節調整値)          | 35.3    | 35.5    | 35.0    | 33.4    | 35.6    | 37.1    | 39.6    | 35.5    | 33.7    | 34.7    | 37.1    | 42.0    |
| [関西]〃 耐久消費財の買い時判断(季節調整値)   | 38.8    | 38.9    | 38.4    | 37.1    | 35.9    | 34.6    | 33.6    | 32.6    | 29.7    | 28.4    | 28.2    | 27.2    |
| [全国]消費者態度指数(季節調整値)         | 37.4    | 37.6    | 37.2    | 37.7    | 38.4    | 38.3    | 38.3    | 36.5    | 35.2    | 32.8    | 33.0    | 34.1    |
| 景況感                        |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |
| [関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値) | 46.2    | 47.5    | 35.3    | 42.7    | 54.1    | 57.3    | 58.7    | 40.3    | 39.3    | 48.4    | 50.6    | 52.1    |
| [関西]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)  | 49.7    | 46.3    | 44.3    | 55.4    | 55.1    | 51.3    | 49.4    | 41.9    | 44.2    | 47.5    | 49.2    | 53.4    |
| [全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値) | 46.5    | 48.0    | 34.9    | 42.3    | 55.1    | 56.8    | 57.5    | 37.9    | 37.7    | 47.8    | 50.4    | 54.0    |
| [全国]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)  | 51.1    | 47.3    | 43.5    | 56.6    | 56.6    | 53.2    | 50.3    | 42.5    | 44.4    | 50.1    | 50.3    | 52.5    |
| 国際貿易                       |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |
| [関西]純輸出(10億円)              | 325.3   | 267.6   | 212.3   | 223.3   | 429.9   | 83.4    | 287.9   | -162.6  | 176.4   | 276.9   | 190.2   | -49.2   |
| [関西]輸出(10億円)               | 1,608.0 | 1,554.6 | 1,519.9 | 1,616.0 | 1,731.8 | 1,595.8 | 1,762.6 | 1,413.6 | 1,578.4 | 1,875.8 | 1,760.6 | 1,674.1 |
| [関西]輸出(前年同月比%)             | 38.7    | 24.9    | 26.1    | 21.2    | 21.0    | 22.9    | 18.5    | 9.7     | 20.3    | 15.1    | 10.2    | 21.0    |
| [関西]輸入(10億円)               | 1,282.7 | 1,287.0 | 1,307.6 | 1,392.7 | 1,301.9 | 1,512.4 | 1,474.7 | 1,576.3 | 1,401.9 | 1,598.9 | 1,570.4 | 1,723.3 |
| [関西]輸入(前年同月比%)             | 20.9    | 17.1    | 30.9    | 30.3    | 18.3    | 39.3    | 32.3    | 35.8    | 30.8    | 27.5    | 22.2    | 48.8    |

注：鉱工業生産 輸送機械工業は銅船・鉄道車両除く。

## 【Release Calendar】

| Monday                                       | Tuesday                                                                                                                                        | Wednesday                                                                                                                      | Thursday                                                                                           | Friday                                           |
|----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 30-May                                       | 31-May<br>全国鉱工業指数<br>(4月:速報)<br>一般職業紹介状況<br>(4月)<br>労働力調査<br>(4月)<br>商業動態統計<br>(4月:速報)<br>建築着工統計調査<br>(4月)<br>消費動向調査<br>(5月)<br>中国 PMI<br>(5月) | 1-Jun<br>近畿圏貿易概況<br>(3月:確報)<br>近畿圏貿易概況<br>(4月:確・速報)                                                                            | 2-Jun                                                                                              | 3-Jun                                            |
| 6-Jun                                        | 7-Jun<br>百貨店・スーパー販売<br>状況(4月:速報)<br>毎月勤労統計調査<br>(4月:速報)                                                                                        | 8-Jun<br>景気ウォッチャー調査<br>(5月)                                                                                                    | 9-Jun<br>中国貿易統計<br>(5月)                                                                            | 10-Jun<br>中国 CPI<br>(5月)                         |
| 13-Jun                                       | 14-Jun<br>全国鉱工業指数<br>(4月:確報)                                                                                                                   | 15-Jun<br>商業動態統計<br>(4月:確報)<br>公共工事前払保証額<br>統計(5月)<br>出入国管理統計<br>(5月:速報)<br>中国工業生産(5月)<br>中国固定資産投資<br>(5月)<br>中国消費小売総額<br>(5月) | 16-Jun<br>近畿地域<br>鉱工業生産動向<br>(4月:速報)<br>全国貿易統計<br>(5月:速報)<br>近畿圏貿易概況<br>(5月:速報)<br>中国不動産市場<br>(5月) | 17-Jun<br>建設総合統計<br>(4月)                         |
| 20-Jun<br>マンション市場動向<br>(5月)<br>実質輸出入<br>(5月) | 21-Jun                                                                                                                                         | 22-Jun                                                                                                                         | 23-Jun<br>百貨店免税売上<br>(5月)                                                                          | 24-Jun<br>毎月勤労統計調査<br>(4月:確報)<br>出入国管理統計<br>(4月) |
| 27-Jun<br>近畿地域<br>鉱工業生産動向<br>(4月:確報)         | 28-Jun<br>全国貿易統計<br>(4月:確報)                                                                                                                    | 29-Jun<br>商業動態統計<br>(5月:速報)<br>建築着工統計調査<br>(5月)<br>消費動向調査<br>(6月)<br>全国貿易統計<br>(5月:確・速報)<br>中国 PMI<br>(6月)                     | 30-Jun<br>全国鉱工業指数<br>(5月:速報)                                                                       | 1-Jul<br>一般職業紹介状況<br>(5月)<br>労働力調査<br>(5月)       |

\*印は発表予定日が未定。